

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 Ramraj Gautam
ラムラジ ゴータム

高齢者人口における抑うつ問題が世界的に注目され、高齢者の精神健康に関する研究の重要性が高まるなか、本研究では、ネパールにおける高齢者と同居子及びその配偶者間のサポート授受が高齢者の精神健康に及ぼす影響を測定するため、高齢者を対象とする構造化面接調査を実施し、以下の知見を得た。

1. 2006年にネパールの首都カトマンズに居住する60歳以上の男女489名を対象に、1対1の構造化面接を実施し、Geriatric Depression Scaleを用いて抑うつ度を測定し、世代間のサポート授受と葛藤と抑うつ度との関連を検討した。二変量解析の結果、男性対象者は息子への情緒的サポート提供が女性対象者に比べて有意に多かった($p < .05$)。女性対象者は男性対象者よりも有意に多くの手段的サポートを息子($p < .05$)とDIL($p < .0001$)から受領していた。女性対象者では、息子よりもDILとの間で葛藤の程度が有意に高かった($p < .05$)。また、対象者は男女ともに、DILよりも息子との間で連帯の度合いが高く、息子よりもDILとの間で葛藤の程度が高かった。

2. 抑うつ度に対してサポートと葛藤が及ぼす主効果と緩衝効果を検討した。その結果、息子及びDILとの手段的サポートの授受と情緒的サポートの授受が多く、息子及びDILからのサポート受領可能性が高い対象者では、抑うつ度が低い傾向が認められた。息子及びDILとの葛藤の程度が高い対象者では抑うつ度が高い傾向が認められた。

3. 性別とサポート/葛藤との検討では、女性は男性に比べて、息子からの情緒的サポートが少ない場合($p < .05$)、息子($p < .05$)及びDIL($p < .005$)からの手段的サポートが少ない場合、息子からのサポート受領可能性が低い場合($p < .05$)、息子($p < .05$)とDIL($p < .05$)との葛藤の程度が高い場合に、有意に抑うつ度が高いことが示された。これは、先行研究が報告しているように、女性は男性に比べてネガティブなサポート授受による影響を受けやすいことによると考えられる。また、家父長制の家族構造における女性の社会的役割が、女性の精神健康に影響を及ぼしていることも考えられる。

4. サポートは葛藤が抑うつ度に及ぼす悪影響を緩衝することが示され、息子($p < .05$)とDIL($p < .05$)からの情緒的サポート受領、息子への情緒的サポート提供($p < .005$)、DILからの

サポート受領可能性($p < .05$)は、葛藤が対象者の抑うつ度に及ぼす悪影響を緩衝することが示された。本研究においては、他のアジア諸国での研究で報告されているように、世代間連帯の度合いが高いほど、高齢者の well-being の度合いがより高い傾向が認められた。

以上、本研究は、先行研究が稀少ななか、ネパールにおいて同居している息子及びその配偶者との関係が高齢者の精神健康に及ぼす影響の一端を明らかにした。本研究は、サポート授受と葛藤、抑うつ度の関係を検討した同国で最初の研究の1つであり、ネパールのように儒教思想の影響が強く、同居している息子とその配偶者が老親の世話をする責任を有するとみなされている社会においては、高齢者と息子夫婦間でのサポート授受のあり方とそれが高齢者の精神健康に及ぼす影響を明らかにしたことには意義があると考えられる。今後、同国で高齢者とその同居家族のニーズに沿った政策を策定する上で重要な知見となることが期待され、学位の授与に値するものと考えられる。